

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
がん学会、ASCB, AACR	1
日本ゲノム微生物学会	1
日本環境変異原学会、日本毒性学会	1
日本植物学会	1
日本進化学会	1
日本人類遺伝学会	1
日本生物物理学会	1
日本薬学会、日本RNA学会	1
日本臨床遺伝学会	1

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった  
2.学術講演以外はするべきではない  
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	年会自体、非常に元気があった気がする。
※	1	研究者社会の問題やサイエンスアウトリーチを議論する場として、年会在場が適当。
※	1	Jazz演奏は、豊かな気持ちにさせる点で良かった。
※	1	学会に活気が戻ったと感じたから。
※	1	意図が明確で、それに対する実行力も大変積極的であった。
※	1	新しい要旨システム等新しいテクノロジーを業界内で率先して開拓するのはすばらしい。また、ガチ議論のように、予算をつける側の方々が科学技術行政にどのような考えを持っているのか知る機会は、この分野に関わる多くの人が認知すると良いと思います。
※	1	ラジカルで、これぞ分生だと思いました。前例化すると困る人もいるんでしょうが、マネージ出来る年会長なら挑戦してもらおうという程度でOKではないでしょうか。(ただし、風化しないように、若い人にも記憶を伝えないと、単なる前例になってしまう。)
※	3	高校生のポスター企画はよかった。ガチ議論や公開プレゼンテーションなどの企画もよいが、反面、JAZZの融合に企画に関しては理解できないものもあるので、特になしとした。
※	3	もっと簡単なしかも基本的な改革ができると思います。(1)学術誌に発表した論文は著者のうち誰がどの実験をしたか明記することを義務づけること、(2)分子生物学会の会員からプラスミッドとう実験の再現に必要な資材をわけて欲しいとのレクエストが来たら友人知り合いに関係なく速やかに協力することを義務づけること。こうすることで発表された研究結果がどうやって作られたか透明性がまし、同時に研究結果が他の研究室での再現性がまし。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

- 質問7. 回答
- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」       | 6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 |
| 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」    | 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助)     |
| 3. 「学会とJAZZの融合」           | 8. 特別企画全般について評価していない    |
| 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」    | 9. 特になし                 |
| 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」 |                         |

※	質問7 回答	理由記述
※	1/2	研究者の立場を行政側に伝えて、制度の改革を図ることは重要。Ph.D.を取得し、海外の研究所で働いた経験を持つ者が、直接、行政官となって科学技術行政に携わる道を作るべきではないか。創業の実情が分かり、良いシンポジウムであった。創業側から基礎研究の重要性を主張してもらうことも必要ではないか。
※	1/2/3/4/ 7	新しい試みが非常に充実していた。
※	1/2/7	学会らしい企画(ガチ議論とかポストドクの招へい企画)のようなものは賛同できるが、アート企画はホテルの一般の方も出入りできる場所とかにおいてもらうようにしたほうがよい。
※	1/4/5/6/ 7	楽しかった。若い研究者の役に立つ。
※	1/6	公開プレゼンは、サイエンスの面白さを中高生や一般人に理解してもらうために非常に重要だと思います。ガチ議論は同上ですが、予算をつける側の方々が科学技術行政にどのような考えを持っているのか知る機会は、この分野に関わる多くの方が認知すると良いと思います。
※	1/7	よく頑張ったと思う。ガチ議論は「なんでこんなやつを連れてきたんだ」という声も出ると想像するが、そういう人もいる世の中で研究しているんだ、ということを忘れてはならない。ポスドク招聘は、注目度が高く、ある種の風穴を開けることに成功している。
※	3/4	狭い視野に陥りがちな研究者の気持ちや考え方を、少し広い視野から研究を見るような気持ちの転換のきっかけになる。
※	5/6	積極的に、一般の人たち、あるいは学生など若手の人たちに情報を発信することができていたと感じた。
※	5/6	サイエンスの面白さをわかりやすく伝える企画だったから。
※	8	あまりにも幼稚。
※	9	方向性は賛同するが、個人的には、個々の企画には魅力的な所が少なかった。

質問9. ITシステム全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	like押しておかないとスケジュールに追加できない仕組みはよくない。
※	ITシステムを使用していない。
※	パソコンを持って歩かなかったので利用する機械をのがしました。
※	会場に入ってから、ITは役に立たなかった(ipadやスマートフォンを持っていないため)パラレルセッションが多いので、聞けないセッションも多い。会員に対して、後日、セッションが見える聞けるように、会員限定のYou tubeなどで、重要なセッションを見ることができるようしてほしい。癌学会では基礎コースについては、ネットでセッションを一般に公開している。
※	各シンポジウムのイントロダクションの文章・コンセプトが良かった。これらの研究が全体的な視点で、どの位置にある研究で、何を狙っているか、総合的な視点で演者を選定している点が良かった。
※	使い方がよくわからなかった。
※	likeじゃないけど、スケジュールに入れたい場合に対応してほしい。評価するのは事後。スケジュールに入れるのは事前なので、like後にしかスケジュールできないのは順序が逆。これだけの規模の参加者の更新系トランザクションを破綻させずに機能させたのは秀逸の一言。
※	告知がわかりにくく、学会終了後に気づいたものもあったので、残念だった。
※	実は、オンデマンド印刷したいくらい。ペラペラとめくりながら、いろいろな研究をざっと見るというような媒体が欲しいから。

質問10. 本年度プログラム集の軽量化について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	このさい、紙媒体はやめてしまってよいです。
※	すくなくともWEB Siteにポスターをのせて欲しかった。ヨーロッパの多くの学会ではFaculty of 1000のこのようなところにポスターを載せています。
※	キーワード集や検索はあるのでしょうか？
※	参加費別に分厚いプログラムを有償で手配したらいいんじゃないでしょうか。ほしい人に対しては。前大会時は電池が持たなくて困ったオンライン要旨システムも、スマートデバイス側の技術革新(機種変更)で電池の持ちも問題なかった。
※	実は、オンデマンド印刷したいくらい。ペラペラとめくりながら、いろいろな研究をざっと見るというような媒体が欲しいから。(本当は要旨も印刷されたものが欲しいくらいなのです。もし3000円くらいでオンデマンド印刷できるのなら、そうするかも。)

質問11. シンポジウムについて（その他）

※	その他記述
※	記述なし

## 質問12. ワークショップについて（その他）

※	その他記述
※	同じようなテーマが繰り返され、年次報告会のようなワークショップが見受けられる
※	1、2の間。盛りだくさんすぎて、フォーラム等参加できなかった。

質問13. 一般演題について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	昨年(九州大会)の、一人3分の発表は良かったので、復活してほしい。

質問14. 高校生の発表(年会参加)について (その他)

※	その他記述
※	隔離されているような感じがした。

質問15. 企業説明会 & リクルートブースについて（その他）

※	その他記述
※	記述なし

## 質問16. 本年会の規模について（その他）

※	その他記述
※	人数はともかく、場所がいろいろと別れてしまうのが移動に辛いです。
※	あまり偉そうにしているヒトが少なかったのは良かった。ちなみに他の学会ではオーガナイザーをはじめセッションチェア等がポスターをみにきていたばかりか、すすんで質問をし学生との会話をしていました。こういう努力が必要だと思います。

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

その他記述	件数
生化学会	1
日本生化学学会	1

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	他の学会のことは論評しないが、分生が今後もガチな企画をやるのなら、単独開催の方がよいのは自明。

質問18. 理事会企画のフォーラムについて（その他）

※	その他記述
※	学術誌に発表した論文は著者のうち誰がどの実験をしたか明記することを義務づけること、つぎに分子生物学会の会員からプラスミッドと実験の再現に必要な資材をわけて欲しいとのレクエストが来たら友人知り合いに関係なく速やかに協力することを義務づけること。こうすることで発表された研究結果がどうやって作られたか透明性がまし、同時に研究結果が他の研究室での再現性がまします。
※	シンポジウム、ワークショップと重なっていて、参加できなかったのが残念である。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	Q16に関して補足の意見です。このくらいの大規模な学会ということで、企業展示なども他の学会とは比較にならないほど多くの企業が参加されているものと思われ、その点では、大変役に立っています。
※	シンポジウム、ワークショップ、ポスター以外の部分については、今回の年会は非常に良かったので、さらに続けて改革して欲しい。できれば次回はシンポジウムとワークショップについても、斬新なアイデアで改革ができると良い。
※	研究費が単年度で配分されており、一部を除き複数年にまたがって使えない、また異なった研究費を混合して使えない弊害についても、学会でとりあげてもらいたい。「研究費を業者に預けて」という「不正」が新聞に取り上げられるが、単年度で分割されて支給される研究費、省庁別に支給される研究費の弊害との関連を明らかにしてもらいたい。
※	「がち議論」に参加しました。今まで聞けなかった話を聞いた点はよかったが、議論された話題が期待していた内容とずれていた点は残念だった。「JAZZ」や「アート」の企画については、時々あってもよいと思った。「不正」に関するフォーラムは、シンポジウム・ワークショップと時間が重ならないよう配慮していただきたい。
※	実現に奔走された裏方のみなさんに敬意を表します。参加していなくても活気が伝わってきました。1999年の福岡ドームのようなワクワク感がありました。